

# The World in Spiral

アーグネス・フス

うずまきによる、多彩な焼きもの世界

帯状の土をぐるぐると巻いて作品をつくる、独創的な技法の陶芸家、アーグネス・フスさん。  
土ならではの柔らかさと、軽やかな造形の楽しさに満ちた作品世界を紹介する



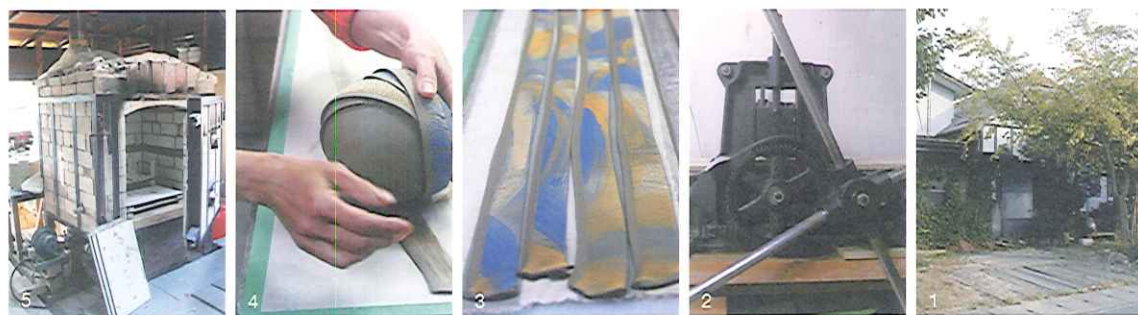
## TEA TIME ART

ハンガリー生まれの陶芸家、アーグネス・フスさんが「うずまき」というテーマを発見したのは、さかのぼること約20年前、オランダでの滞在制作のときだった。当時は文字を立体化する作品を制作していたものの、どこかしっくりこないものを感じていた。そのときふと、土をいじるうちにできた、カタツムリの殻のような土の塊が目についた。その形状のもつ可能性に、「一気に魅せられた。」「やっと自分のモチーフにたどり着いた、と感じました。なにしろ、つくっていて気持ちがいいのです。土にも無理をさせず、その自然で魅力的な表情を引き出せる技法だと思えます」

三ヶ月の滞在制作のテーマは、「文字」から「うずまき」に変わり、渦に吸い込まれるように制作に没頭。以来、このテーマを追求しつづけている。

陶芸というと、ロクロの回転盤のイメージがすぐに浮かぶが、アーグネスさんの制作にロクロはほとんど登場しない。土を薄く伸ばして、彩色したあとに帯状にカットする。さらに手打ち廻のように、土の柔軟な性質を利用して、一本一本の帯をもつと長くする。こうしてできた、長くて色の着いた帯状の土が、アーグネスさんのつくる作品の基本のパーツだ。アーグネスさんの特徴は、この同じ帯状の土を使って、小さなカット

1. アーグネス・フスさんの自宅兼工房
2. 土を伸ばすプレス機。パートナーの銅版作家、若林文夫さんの道具を譲り受けて使っている
3. 帯状の土。どの作品にも使う、基本のパーツ。呉須(ごす)などで色を施している
4. 球体にぐるぐると巻き付ける。芯の部分には風船が入っている
5. 作品を焼く灯油窯







## GRAVITY ON THE MOON

美しい造形のアーティスティックな日用品として、毎日使うことで生活にアートを取り入れて頂けます。

〈アグネス・フス〉  
 右ページ ティーポット (陶器/サイズ00×00×00) 17,850円、カップ&ソーサー (陶器/サイズ00×00×00) 8,400円  
 左ページ ムーン花入れ (大) (陶器/サイズ00×00×00) 63,000円  
 下 おりがみ香合 (陶器/サイズ00×00×00) 18,900円  
 ■新宿本店5階=アートギャラリー

使い手の好みで組み合わせを替えられる組みの箱など、うずまきのモチーフは一貫しながら多彩に展開しているアグネスさんの作品世界。これから新たに生まれてくるうずまきにも、期待が高まる。

長く日本で暮らしているアグネスさんだが、日本の伝統的な陶芸文化への理解も深い。「これだけ焼きものが愛されている国は、世界でも稀。茶道や華道など、さまざまな伝統文化と陶芸が密接に関係しながら、日常のなかに深く根ざしていると感じます。安価でデザインは豊富だけれど画一的な焼きものが世界的に広がるなかで、日本では手づくりの器を生活のなかでどう楽しみながら使うかという感覚が共有されていて、嬉しいです」

ブヤブヤと、大型の花器、さらにはオブジェ (造形作品) まで、すべてをつくってしまうことだ。どんな傾向の作品も、同じ技法でつくる。小品も大型の作品も、どれを見ても共通した世界観で統一されているのは小気味いい。



profile

Agnes Husz

1961 ハンガリー共和国モハチ市生まれ  
 1990 国立ハンガリー美術工芸大学陶芸科修士課程修了  
 1993 結婚を機に来日、長野県上山田温泉 (現:千曲市) に築窯  
 現在に至る

東欧×日本

「アグネス・フス陶芸展」  
 ■1月30日 (火) ~ 2月5日 (火)  
 ■伊勢丹新宿本店  
 5階 アートギャラリー

